

日経メディカル

医師 TOP NEWS & REPORT 連載・コラム 特設サイト (医療経営/癌他) 学会カレンダー 処方薬事典 サービス

Web講演会 企業求人

お知らせ > 日経BP 媒体横断特設サイト「コロナショックに臨む」 > 医療従事者向けCOVID-19関連記事を続々配信中! > お問い合わせ

医師TOP > NMO処方サーベイ > 依存性は気になるけれど…デパスの首位変わらず

NMO処方サーベイ

連載をフォロー

抗不安薬◇第4回調査

依存性は気になるけれど…デパスの首位変わらず

第2位アルプラゾラム、第3位クロチアゼパム

2020/05/17

精神・神経

処方サーベイ 抗不安薬

印刷

シェア0

0

ツイート

日経メディカル Onlineの医師会員を対象に、抗不安薬のうち最も処方頻度の高いものを聞いたところ、56.1%の医師がエチゾラム（商品名：デパス他）と回答した。

第2位のアルプラゾラム（コンスタン、ソラナックス他）は11.0%、第3位のクロチアゼパム（リーゼ他）は8.1%の医師が、最も処方頻度の高い薬剤として選んだ。



図1 日経メディカル Onlineの医師会員が最もよく処方する抗不安薬 (処方経験のない644人を除いて作成)

図には示していないが、4位以下は次の通り。

ロラゼパム (ワイパックス他)	7.1%
ジアゼパム (セルシン、ホリゾン他)	6.5%
ロフラゼブ酸エチル (メイラックス他)	5.3%
オキサゾラム (セレナール)	1.3%
タンドスピロンクエン酸塩 (セディール他)	1.3%
クロキサゾラム (セバゾン)	1.0%
プロマゼパム (セニラン、レキソタン他)	0.8%
メキサゾラム (メレックス)	0.4%
クロルジアゼポキシド (コントロール、バランス他)	0.3%
フルジアゼパム (エリスパン)	0.2%
フルトプラゼパム (レスタス)	0.2%
クロラゼブ酸二カリウム (メンドン)	0.2%
メダゼパム (レスミット他)	0.1%

フルタゾラム（コレミナル） 0.1%

今回で4回目の調査となるが、第1回調査（2015年10月）、第2回調査（2017年9月）、第3回調査（2018年8月）から今回まで、順位に変化はなかった。

【調査概要】日経メディカル Online の医師会員を対象にウェブアンケートを実施。期間は2020年4月25日～5月2日。有効回答数は3742人。内訳は病院勤務医2619人、診療所勤務医497人、開業医529人、その他97人。

第1位のエチゾラムを処方する理由

(デパス他)

- ・即効性もあり効果も十分なので、重宝しています。ただし依存性の問題があるので、使用は頓服程度にしています。常用させる場合には、セディールなどを用いるようにしています。（40歳代病院勤務医、一般内科）
- ・正直あまり使わないようにはしています。デパスは前医からの引き継ぎで継続しますが、依存性が強いのが問題で、新規は極力使わないようにしています。（50歳代病院勤務医、循環器内科）
- ・依存性、転倒リスクなどでやり玉に挙げられています。自分では、適切な使用を心がけています。前医の処方継続の場合には、減量に苦心します。（50歳代病院勤務医、一般内科）
- ・デメリットが多いのは重々承知しているが、以前から頻用している患者が多く、やむなく投与しています。（40歳代診療所勤務医、一般内科）
- ・短時間型で依存性の問題はあるものの、切れ味がよく、多くの人に効果が強い。（40歳代病院勤務医、脳神経内科）
- ・他の薬剤の方が有効性安全性に優れると思いますが、患者の希望が強く処方数としては最も多くなっています。（60歳代開業医、一般内科）

第2位のアルプラゾラムを処方する理由

(コンスタン、ソラナックス他)

- ・依存性に注意が必要であるが、筋弛緩作用が少なく、作用時間も短いため、高齢者にも比較的安全に使用できる。（60歳代病院勤務医、呼吸器内科）
- ・基本的にベンゾジアゼピンは使用しないのですが、持ち込み例ではやめることもできず継続処方している程度です。（40歳代病院勤務医、一般内科）
- ・抗不安作用、催眠作用、筋弛緩作用などのバランスが良いと思う。（50歳代病院勤務医、脳神経内科）
- ・即効性で用量調節も容易だが、日中の服薬は眠気が欠点。（50歳代開業医、一般内科）

第3位のクロチアゼパムを処方する理由

(リーゼ他)

- ・鎮静作用が少なく、眠気も少ないのが長所です。短所は、やや効果が弱いことです。（50歳代病院勤務医、一般内科）
- ・効果はいまひとつかもしれないが依存性が低くやめやすい。（30歳代病院勤

務医、精神科)

・作用がマイルドで、内科医としては最も使いやすい抗不安薬です。(60歳代開業医、消化器内科)

1

シェア 0

0

ツイート

連載の紹介

NMO処方サーベイ

NMO処方サーベイでは、日経メディカル Onlineの医師会員を対象に毎週実施している調査の結果を基に、全国の医師がどのような薬剤を最もよく処方しているのか、また、その理由をご紹介します。医師会員の先生方は、ぜひ調査にご参加の上、NMO処方サーベイの結果を日々の診療にお役立てください。

→医療・医薬関係者向け『日経メディカル処方薬事典』はこちら

⊕ 連載をフォロー

この連載のバックナンバー

依存性は気になるけれど…デパスの首位変わらず

2020/05/17

α遮断薬：ウラピジルがじわりシェア伸長

2020/05/16

フェブリックがさらにシェア拡大、不動の首位に

2020/05/15

断トツのファモチジン、さらにシェア伸ばす

2020/05/14

ループ利尿薬：フロセミドのトップ揺るがず

2020/05/13

> もっと見る

この記事を読んでいる人におすすめ

NMO処方サーベイ

抗不安薬：デパスが不動の一番人気

2017/09/02